

MORGAN FISHER

あなたが手放しをすることで、幸運がやってくることを祈る。自分の好きなやり方で、何度でも、軽い気持ちでそれと戯れるといい。あんまり考えすぎないことだ！可能性は無限だ。そして、それはあなたのまわりをとりまく、いたるところにある！



無為から生まれる
創造性——それは
可能なのか？

私が出会った唯一のビートルズメンバーはジョージ・ハリソンだった。

それは1969年のことで、ロックスターたちが一緒に飲んだり演奏したりするロンドンのプライベートなハブでのことだ。そのころの私は19歳の新人で、シャイなポップスターだった。

彼はビートルズデビュー6年目の世界的に有名なヒーローであり、伝説だった。そして、インドから戻ってきたばかりで、長髪のヒッピーのようだった。私は彼と飲みながら話していた5分後に、はじめて相手が誰かに気がついた。彼はしらけた雰囲気だったが、おそらくそれはビートルズがすでに解散を考えていたからだろう。それに、彼は何ヶ月かをインドで過ごし、ロンドンに戻ったばかりだったこともあって、いくらかカルチャーショックも感じていたのだと思う。後にインドがどれほど深く、霊的のみならず音楽的にも彼に影響を及ぼしていたのかを私たちは知ることになった。

彼は「静かで深いビートル」と呼ばれていた。彼ら4人のなかで、自分が出会った

のが彼だったことを、私はほんとうに嬉しく思う！

ビートルズが解散してから、ジョージは新しい音楽活動に飛びこんだ。何年かのあいだ、ジョン・レノンとポール・マッカートニーに、それぞれのアルバムで1曲か2曲しか書かせてもらえなかったことで、彼は欲求不満を感じていた。そう、ビートルズメンバーでさえ、巨大な成功にもかかわらず挫折を感じることはありうるのだ。

自由になるやいなや、ジョージは3つのアルバムセット『All Things Must Pass』というタイトルにした3枚のLP)用に充分な曲をレコーディングした。彼は、自分の人生に対する霊的アプローチを理解できる、才能ある感受性に富んだミュージシャンたちに囲まれていた。

「ビートルズ後の活動は『Living in the Material World』とラウドキョメンタリーで、深く掘り下げられている。私はこれを自分の人間性と瞑想生活を維持することが

できた、ひとりのスーパースターについての最も素晴らしいドキュメンタリー映画として、非常に高く推奨する。

もうひとつ大好きなドキュメンタリーは『The Concert for George』というDVDで、2002年にエリック・クラプトンが主催して、ジョージの友人たちが出演した追悼記念コンサートを録画したものだ。彼が亡くなって、ちょうど一年後のことだ。そして本稿のほんとうの主題は、まさに私がこのビデオのなかで見たなにかだった。

この『The Concert for George』を観ることは、私にとつて、いつも非常に感情的で、高揚させられる体験だ。ジョージの友人である、何十人という非常に才能あるミュージシャンたちが彼の音楽を演奏していて、彼らのハートと魂に深く感動して、私はよく自分が涙しているのに気づく。(私は自身もいくつかの彼の追悼コンサートで演奏してきたが、それはいつも通常の葬儀よりももっと美しく、さらにもっとお祝いの

ムードにあふれたものだった)

このコンサートのなかほどで、一度バンドと聴衆が盛り上がるのだが、特にひとりの男が私の注意を引いた。それはドラマーのジム・ケルトナーで、彼はおそらく世界中で最も有名なスタジオドラマーであり、30年以上もジョージと演奏してきた人だ。

涙でにじんだ目で彼の姿を見ていて、私は突然、ほんとうは彼がドラムを叩いているのではなく、満ちあふれてくるエネルギーによって、演奏させられているのだということを理解した。

彼は、その演奏で強烈なリズムを生みだしていたが、それにもかかわらず、彼の動きはやわらかく、ほかの演奏者たちより常に少しスローなように思われた。彼がどのようにに強力なビートを創出しているとき、彼の内面の静けさが感じられるのは奇妙な逆説だった。

彼の頭はいつも前にかがめられ、目は半眼に閉じられ、まるで演奏しながら瞑想しているかのようだった。通常、ロックのド

ラマーや太鼓の演奏者には、私たちは多大な筋肉の酷使、努力、汗、緊張などが見えるのを期待する。だが、このブッダの核心とサムライの腕を持つ彼はすばらしかった。

音楽を演奏していて、私はときどきこの無努力のスペースを感じてきた。そこでは新しい音楽が私を通して流れ出ている、私は中空でいて、静けさを感じているのだ。それは深い喜びだ。

少年のころ、学校でのレースで走っていたとき、ときどき自分が似たような感覚を感じていたことを思いだす。私は100メートル走が得意だった。しばしばレースのなかほどで、腕と足を高速で動かしているながら、突然穏やかな静けさを感じることもあった。自分の走っている姿が、まるで映画のように見えるような気がした。

後に、大人になって、私はスーフィーの旋舞瞑想をやってみたことがある。これは簡単なので、あなたも家でやってみる

ことができる。それについての説明をインターネットでも見つけられる。(たとえば <https://goo.gl/6jfcKH> や <https://goo.gl/Mht19>)

旋舞をするとき、いつでも何分が舞っているうちに、回転しているのは自分ではなく、世界が回転しているのだと感ずる。しかも、



● TOKYO 2014

私はなにもしていない。ただくつろいで開いた目の前で、部屋が回転しているのを見ているだけだ。

日常生活では、このような「手放し」体験は、ほんのわずかしが期待できない。これこそが人間であることの挑戦なのだ。おそらく、自然はいつでもその状態で生きている。

この状態は、動物の集団をすばらしい方法で、一体化することができる。魚群が同時に同じ方向に向きを変える様子をちょっと見てみるといい。あるいは鳥の群れが空中で美しい矢の形になって、完璧に隊形を整えて、集団で飛ぶ様子を。計画も、指導者も(そして衝突も!)なしに。

意識ある人間として、私たちはこの手放しの瞬間と戯れることができる。たとえば、目が覚めたとき、私はベッドから出る前にストレッチをする。そのとき、私は自分の身体の一部がシェイクを欲していないかも調べる。通常、それは片手や片足からはじ

モーガン・フィッシャー

世界を舞台に活動するミュージシャン。
キーボード奏者としてはラブ・アフェア (1968 年全英 No1 ヒット)、モット・ザ・フープル (デヴィット・ボウイのプロデュース)、ヨーコ・オノ、クイーン、REM、YMO など、世界有数のアーティストたちと共演。メディテーション・ミュージックのほか、さまざまなスタイルのCM、映画音楽を手がけている。芸術写真の分野でも、抽象写真において独自のスタイルを確立。ソロライブ活動で、ライトペインティングを映しだしながらの即興活動を行っている。

音楽サイト：www.morgan-fisher.com
絵画サイト：www.morganfisherart.com
ハートミュージズビデオ：
www.youtube.com/watch?v=QMi8NrQtaBw



「Heartmuse」

ハートの詩神
—ハートを開くための音楽
定価 2,500 円 (税別)
ユニティインスティテュート



● Hawaii 1990

まる。
私がそれを決める必要はなく、ただそれを起こるのをまかせただけだ。それは毎日異なっていて、シエイク (揺すぶり) は手から足、それから肩、頭と、かなり自由に移動する。それはどんな緊張も解放するすばらしい方法だが、それだけではない。それはシンブルな「手放し」の味わいであり、そのあとほかの方法でも遊ぶことができる。

なにか自分が好きな元気のいい曲を聴いてみてほしい。そして、それを聴きながら、鉛筆かペンを持って、一枚の紙の上で手を自由に動かす。もしかしたら、あなたの手が少し震えて、なにか抽象的な記号のようなものができるかもしれない。もし、シエイクが起こらなければ、なんでもいいので、すばやくなにかを描いてみる。百の異なる顔を、できるだけ速く描いてみるという。どこかの時点で手が勝手に動きだし、あなたが自分で動かさなくても、なにか別のもを描きはじめるのに、あなたは驚くかも

しれない。

シエイクすることは、実際、私にとって新しいタイプの絵画を創造するひとつの方法になった。何年も前ハワイで、私はクリスマス・イルミネーションの写真を撮ろうとした。寒かったので手が震えて、大部分の写真がブレてしまい、がっかりした。
翌日、もう一度写真を見てみると、今度はそれが絵のようで、けっこうおもしろいと思えた。そこでまた何枚か、もっと手を揺らして写真を撮ってみた。私はその結果が入って、そのとき以来、私は自分の「シエイクンク技法」を洗練して、非常に多くの「光の絵画」を制作した。

私がときどき経験する、もうひとつの「手放し」体験は、必要なときに、まさにピツタリのやり方で、アイデアが浮かんでくることだ。この記事を書いているとき、コンピュータを前に座っていて、ある時点で、次になにを書こうか懸命に考えている自分に気がついた。あまり長くやりすぎるのは

いいことではない！ 私は外に出ることにして、しばらく自転車に乗った。
わずか15分ほど乗っただけで、頭のなかに2つ3つの考えが浮かんできた。それはちょうど私が探していたことまさに関係したもので、しかも文章を書き進めるのを助けてくれるものだった。(運良くメモとペンを取り出して、忘れないうちにそれを書きとめることができた！)

さて、私はこれらの考えを自分で生み出したのだろうか？ そうは思わない。私はそれを受け取ったのだ。そして、なにか簡単な身体の動き (それは歩くとか、車のドライブであってでもいいし、泳ぐことであってでもいい) をすること、それがやってくるのを手伝ったのだ。その動きが「頭をすっきりさせ」(英語では (clear my head) という)、おかげで私は開き、静かできた。

ここでは「注意深く気づいている」とい